

財団だより

第117号

2008.3

多摩川



事業年報特集号



写真撮影
伊藤信男
(いとう・のぶお)
世田谷区代田在住

■ たまがわの生きものたち ■

—カタクリとヒキガエル—

カタクリ（ユリ科カタクリ属）は、山野に自生する多年草で、3月～5月が開花期で、紅紫色の美しい花を咲かせる。やや寒い所の方が大きな群落が見られ、春の花では人気が高く、自生地を訪れる人が多い。カタクリの旧名は「かたかご」と云い、万葉集にも登場するが、詠まれた歌はわずかに一首のみである。昔は根（球根）を掘り、カタクリ粉として食用とした。（4月調布市：撮影）

カジカガエル（アカガエル科カジカガエル属）は、本州、四国、九州の山地の溪流にすむ、日本固有のカエルである。体長はオスで約4cm、メスで約7cmと、メスの方が大きい。4月ごろ冬眠からさめると、流れの岩の上でのどをふくらませ、こまかく振動させながら鳴きはじめる。鳴き声は、玉をころがすような澄んだ声で谷川にひびきわたる。メスの産卵期が終る8月になると、鳴き声は聞かれなくなってしまう。（5月養沢川：撮影）

Contents 目次

- 巻頭言
多摩川を心の故郷に！……………2
- 特別寄稿
奥多摩町の森林セラピー基地活動について……………3
- 大地のおくりもの 国分寺の井戸……………4
- 玉川上水の自然保護活動による
「ふるさとづくり」……………5
- 保存樹林地の活用 里山に学ぶ……………6
- 財団事業年報特集
 - 事業日誌……………7
 - 研究助成事業……………9
 - 第13回助成研究ワークショップ……………13
 - 多摩川流域で活動している団体一覧……………15
 - 多摩川関連の主な新聞記事……………16
 - 選考委員紹介……………20

巻頭言

多摩川を心の故郷に！



東横学園女子短期大学
学長 海老原 大樹

昭和23年、私たち一家は満州から引揚げ帰国した。引揚げ後に日本で生活するはずの土地は、既に農地改革で不在地主として没収されていた。そのため、私たちは三鷹の引揚寮に入居した。もと中島飛行機の社宅であったこの寮は約60世帯が生活していたが、引揚者ばかりのため連帯感も高かった。このためか、寮内のおばさんにはよくかわいがってもらったり、怒られたりもした。

夏のある日、近所のオジサンに私たち数人の小学生は是政に連れて行ってもらい、川遊びを楽しんだ。これが私と多摩川の初めての出会いである。

満州でも一家で川遊びはしており、魚を釣ったり岸辺の草むらの下あたりにザルを入れ、川えびをとり、我家でよく天ぷらにして食べていた。このためか、川遊びには何の違和感もなく楽しめたが、多摩川は石ばかりがごろごろしており、川岸の草むらは少なく、魚のいる気配はあまり感じられなかったと思う。ただ、川遊びでびしょびしょになったランニングシャツ、パンツを脱いで、太陽で熱くなった石にはりつけ、乾かしながら素っ裸で遊んだことを今でも憶えている。

たぶん、このように子どもの川遊びは日本のいたるところで行われていたであろうし、成人したときに、私のみならず懐かしい思い出となっているであろう。

しかしながら、最近では、川遊びは危険なものとして、川周辺への立入りを禁止する風潮が強いように感じられる。

川遊びだけではないが、用心深く川の中を歩

くことで水の流れやその強さを学び、魚や水中の生き物の生態系の観察など、さまざまな事柄を自然に学べる子ども時代の経験は、まさに重要な体験学習の場である。確かに、学校の試験などには直接関係がないかも知れないが、このような事柄の積み重ねが“環境”を考える基礎となっているのではなかろうか。

ところが、河川敷でバーベキューをして酔っ払った人が川に入り、溺れたりする。これは本来の川遊びではないにも拘らず、川の危険性が強く印象付けられてしまっている。

また、かつて台風の大雨で多摩川の水量も増加し、河川敷までが水に浸り、住宅が流されるなどの災害もあった。しかし、本来“川”には水量の変化はつきものであり、これらを含め、川と人間との共生が必要である。私は川を取巻く環境整備とは単に排水の汚染防止だけでなく、人間や水生動物などと川との共生を復活させ、川を有する風景が人々の心の故郷として生きづくように整えることではないかと考える。

その為には、ただ災害対策と称して川岸をコンクリートで固めるばかりではなく、川本来の姿を保ち、子どもが安心して川遊びに興じられるようにすることが今求められていると私は思う。この点、とうきゅう環境浄化財団が中心となり、多摩川の復活に力を注いでいることの意味は大きく、大変有意義なことと思う。



いつもはおだやかな多摩川の風景も、大雨などの災害時には河川敷が見えなくなるほど水位が上がってしまう。

特別寄稿

奥多摩町の森林セラピー基地活動について



奥多摩町観光産業課
森林保全活用係長
原島 滋隆

奥多摩町は、森林率が94%で、町内全域が秩父多摩甲斐国立公園内となっており、日本百名山の一つである雲取山をはじめ、数々の山々と渓谷を有する、東京において貴重な自然が残された地域で、その自然に触れるため、毎年多くの方に訪れて頂いております。

森林セラピーとは、自然の気候・地形・木・花・水・香りなど、森林の環境を活用し、森林浴やウォーキングや呼吸法、農林業作業体験やアロマセラピーなど五感を使う様々な活動を行うことによって人の心と体の健康維持・増進と病気予防に繋げようとするものです。20年ほど前に「森林浴」が盛んになりましたが、「森林浴は感覚的に体にいい」という考えでしたが、「森林セラピーは医学的根拠に基づくもの」となっています。近年、森林セラピーを実践すると、免疫細胞であるナチュラルキラー細胞が活性化するとともに維持効果も高まるという研究結果が日本大学の李卿先生等から発表されています。このことから、認定については、森林セラピー実行委員会が生理実験等を踏まえ決定することとしており、規模・体制によって「森林セラピー基地」と「森林セラピーロード」に区分されます。「森林セラピーロード」は散策路のみを対象とし、「森林セラピー基地」は複数のセラピーロードと宿泊や医療などの施設や体制が整っている地域を対象として

います。奥多摩町では「森林セラピー基地」として申請をしております。

現代は、ストレス社会といわれており、ストレスを抱えている方やメタボリックシンドロームなどに代表される生活習慣病やその予備軍の方が増加しております。

奥多摩町では、都心から2時間以内で来られる立地条件であることから、町民の方はもちろん、多くの都市住民の方々にも気軽に来ていただき、森林セラピーを実践することによって、心と体の健康維持・増進と病気予防に役立てて頂こうと考えております。

このため、森林セラピーを効果的に実践するためのセラピーロードの研究を千葉大学に委託し、「全国初」となる試みとして森林セラピー専用ロード整備を今年度より開始しました。受入体制についても、医師や旅館・農家・企業等と連携し、健康チェック・各種の活動・地元食材を使ったヘルシー食の提供・専属の森林セラピーガイドの育成等、奥多摩町の特色を活かすための検討を開始するとともに、20年度は、季節ごとに1回、計4回のモニタリングツアーを行い、利用される方からの意見も取入れさせて頂き、より良い森林セラピーを提案させて頂きたいと考えておりますので、機会がございましたらツアーにもご参加頂きたいと考えております。正式オープンは21年春を予定しておりますが、利用が始まりましたら、是非、奥多摩町で森林セラピーを受けていただき、皆様の心と体の健康にお役立て頂きたいと思っております。また、森林セラピーを通して、「自然の貴重さ」「多摩川のすばらしさ」が再認識され、一層の環境保全に寄与できるものと考えております。



セラピーロードのある新緑の「鳩ノ巣渓谷」

多摩川散歩

■ 大地のおくりもの 国分寺の井戸 ■

国分寺と地下水の会
藤木 千草

国分寺地下水の会は、13年ぶりに井戸所有者の聞き取り調査を行い、『国分寺の井戸～大地のおくりものその3』を2007年9月に発行しました。第1回の調査は1990年、第2回は1993年に行い、それぞれ1992年と1994年に小冊子にまとめました。再調査のきっかけはメンバーの阪神淡路大震災の経験談を聞いたことでした。飲料水の他、トイレ・洗濯・洗面など生活用水に多くの水が必要であることを改めて意識し、身近な水源の一つである井戸がどうなっているか、訪ねることにしたわけです。

前回の記録をもとに所有者の方々に連絡を取るところからスタートしました。何件かはもうお話をくださった方もいらっしゃるらないということで伺えませんでした。最終的には新たに紹介されたところも含め、21箇所の井戸を訪問することができました。現在も大事に使われている井戸がほとんどで、所有者や管理されている皆さんの

お話から、国分寺に住み始めた頃の暮らしぶりや水を大事にしていっしょにやる様子がよくわかりました。

以前に比べ災害時をより強く意識されているようでもありました。

また、国分寺市は災害に備えて1989年より手漕ぎポンプの「むかしの井戸」の設置を開始し、現在、市内15箇所にあります。そのうち5箇所を訪れ水質や透明度などを調査しました。

冊子には皆さんからお聞きした井戸にまつわるお話・「むかしの井戸」の状況・地図を掲載しています。井戸のある風景をカラー写真で紹介するページもあります。まとめの作業をしながら、雨がしみこむ大地・緑を増やし、地下水までも視野に入れた都市づくりの重要性を再確認しました。冊子の完成後、訪問した皆さんをお招きし、ミニフォーラムを開催しました。井戸を維持する費用援助や日ごろからの地域での関わり必要性について意見交換しました。

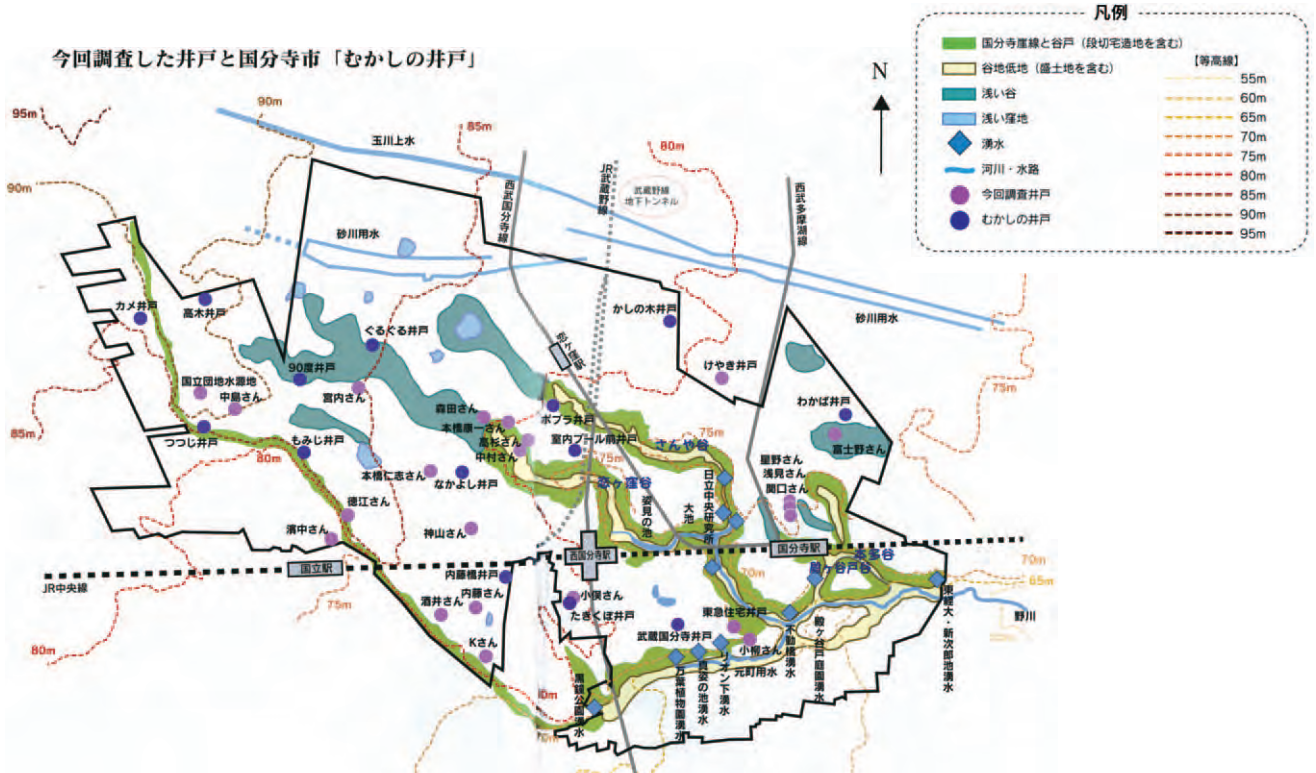
本書は頒価300円（送料別）です。ご希望の方は下記へご連絡ください。

国分寺地下水の会

国分寺市戸倉1-8-43-206

電話：042-328-1864

FAX：042-328-1878



冊子の一部分

私と多摩川

玉川上水の自然保護活動による「ふるさとづくり」



玉川上水の自然保護を考える会
会長 柴 俊男

多摩川と都心部を結ぶ「玉川上水」は、貴重な自然環境・土木遺構として、平成11年に都の「歴史環境保全地域」に、平成15年には国の「史跡」にも指定されました。

羽村から小平監視所までの上流12kmには現在でも水道用原水が流れて東村山浄水場に送られ、下流部には「清流復活」事業として再生水が流されています。

当会の活動区域は上流部の立川市域であり、平成元年12月に活動を始めて、本年12月で20周年を迎えます。発足直前の玉川上水は、護岸工事による断水でホタルが姿を消し、柵内法面の野草も草刈り機で刈られて絶滅寸前となり花も見られず、流量の減少で川底にビニール袋等のゴミが写りかかり見るも無残な状態でした。

「川底は、流域住民の心を映す」と言われますが、先づ、地域の農家の方々からは川底のゴミを見たくない、女性の皆さんからは季節の花々を見たい、高齢者からは昔のようにホタルを見たい等の強い要望がありました。当時、公民館の市民自主企画講座「玉川上水の植物調査」・「玉川上水にホタルを飛ばそう」が開催され、その受講者やPTA・地域団体の有志等で当会が結成され発会の運びとなりました。

会の目的は、玉川上水の自然環境保護・水道用原水導水路としての良好な管理への協力・活動を通じた仲間づくり・孫子の代まで豊かな自然を残す「ふるさと」づくり等として、月2回の定例活動を続けて来ました。具体的な活動内容は、野草・樹木の保護復活、巣箱・樹名板の設置、カワニナ・ホタルの増殖・放流、自然観察会の開催、緑道・水路の清掃、カレンダー作成等です。更に近隣の小学校からの要請による「総合的な学習の時間」・「特色のある学校づくり」・「ヤゴの学校プールからの救出」や都立高校の「社会体験学習」への支援、立川市社会福祉協議会からの「夏休みボラ

ンティア体験」の受け入れ、地域団体との連携による3世代交流事業「なんでも遊び塾」の開催等幅広い活動となっています。また、玉川上水の自然環境保護の立場から、公共工事に伴う玉川上水の現状変更についての意見書の提出、マンション等建設への計画見直しの要請等も行っています。

これまでの活動の経過の中では、活動対象が都水道局の管理施設ということで、当局との対話による相互理解と協力関係づくりに留意して来ています。

昨年6月には200頭(匹)余のホタルが飛び交う様になり復活宣言を行うことができました。野草や野鳥も見られるようになり、地域内での仲間づくりも進んで、「ふるさとづくり」も形が見えて来たと思われま

す。今後は団塊の世代の活動を呼びかけ、学校・地域内各団体との連携強化等により、地域の「教育力向上」も見据え、地球環境を地域から護る活動を進めて行きます。

ホタル発生情報

6月1日～6月15日

20:30～21:30 (平成19年の場合)

金比羅橋～清願院橋 (玉川上水駅)

問い合わせ: TEL・FAX 042-536-1955 柴まで



春の玉川上水



法面の野草植栽作業する会員

多摩川に学ぶ 保存樹林地の活用

ー里山に学ぶー



瑞穂町立瑞穂第三小学校
教諭 森田 光徳

本校の南側は小高い丘陵になっていて、明治27年にこの地に学校ができた時は、赤松の林であった。そこは陸軍の演習時、行軍兵士のよき休憩地であった。昭和3年に時の校長が林間教場を作った。夏の暑い日には、椅子を持ち込んで童話や寿限無を聞いたと言う。戦争中には高台になってサツマイモ畑に変容し、現在はプールとふるさと思い出館がそこにできている。

今年度になって更にその西側の保存樹林地が学校の里山として活用できるようになった。

1 構想と年間計画

(1) 里山活用の構想

- ①自然とふれ合い、そこに生息する動植物を観察する。
- ②里山を文化・自然遺産として守り、未来に伝える。
- ③里山文化を学び、自然体験の場とする。

(2) 年間計画 (一部)

- ①里山の整備・下草刈り (PTA、教職員)
- ②枯れ枝や放置されたビニール等の片付け (3~6年)
- ③四季折々の植物、小動物、野鳥の観察 (全学年)
- ④ネイチャーゲーム、私の木 (1~3年)
- ⑤里山と人々の暮らし、里山の歴史・文化 (4~6年)
- ⑥里山の素材を活用した図工作品作り (全学年)

※今年は開設したばかりなので里山の整備や使うに当たってのルール作りが、最初の仕事であった。

2 主な活動内容の紹介

(1) 里山オープンセレモニー (5月21日)

町長さんをはじめ教育委員会や建設課、(財)オイスカ等の関係者、地権者をお招きして開設の式を実施した。児童は3年生が代表の言葉を述べ、講師からネイチャーゲームを教えてもらった。

(2) 三小(里山)の木を調べよう(3年生)

3年生は、一学期から“私の木”を決めて、その木について調べ学習を始めた。木の大きさや高さ、葉の付き方、枝振り、どんな花が咲くか、どんないわれがあるか、図鑑やインターネットで調べたり、

校長先生や地域のおじいさんに聞いたりしてまとめた。それをグループごとに3m×0.9mの用紙にきれいに描き上げ10月26日に発表会をした。

(3) ふるさと発見 元狭山(6年生)

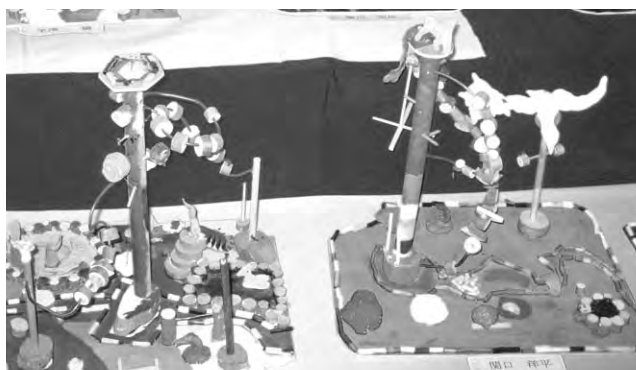
6年生は、総合的学習として地域の歴史・文化・遺産についての調べ学習をしている。三小地区の街道・石碑・神社、年取らず川の源流を探る、二本木の宿と日光街道、高台の桜と校庭の大桜、林間教場と里山、狭山丘陵と雑木林などのテーマがある。やはり大きな用紙にまとめて地域の人達や在校生の前で発表した。それを聞いていたお年寄りから昔はこうだったというようなお話しもいただいてお互いに交流を深めることができた。

(4) 里山の素材を活用した展覧会(11月17日)

里山には、木の枝、木の実、つる、変わった根っこ、落ち葉など図画工作の材料が限りなくある。1年生は工作で「ケーキ」を作ったが、その上にのせたどんぐりは里山で拾ったもの、3年生の「天空の城・ラピュタ」も4年生の「森の仲間達と立体屏風」もその材料は里山の間伐材を活用した。

3 今後の課題(計画)

- 里山周辺には、100種類くらいの野鳥がいる。その探鳥会や巣箱かけなどもやりたい。
- 昔は、里山にやまゆりなども生えていた。そうした球根も植えて育てたい。



展覧会 3年生の「天空の城・ラピュタ」



開設式後のネイチャーゲーム(3年生)

財団事業年報特集

1 事業日誌 (2007年1月～2007年12月)

- 1月15日 平成19年度助成研究の公募を締め切る (応募件数56件)
- 1月24日 第379回常任理事会を午後2時から渋谷南平台東急本社で開催
—第53回理事会、第49回評議員会開催についてほか
- 1月27日 東京都埋蔵文化財センター主催シンポジウム「多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境復元—土と遺跡時間と空間」後援 (会場：調布市文化会館)
- 2月28日 第380回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
—第49回定時選考委員会開催についてほか
- 3月1日 財団だより”多摩川”第113号 (事業年報特集号) 発行
—特別寄稿「連載—多摩水と人と—をふり返って」(朝日新聞東京総局立川支所記者 石川幸夫)
—巻頭言「育ち行く人々の心のなかに多摩川を」(東横学園短期大学学長 堺 孝夫) ほか
- 3月19日 第49回定時選考委員会を午後1時30分より、渋谷地下鉄ビル内会議室で、選考委員9名出席のもと開催
—新規研究14件 (学術研究7件、一般研究7件)、継続研究10件 (学術研究6件、一般研究4件)をそれぞれ採択
- 3月22日 第49回評議員会を午前9時より南平台東急本社にて開催
第53回理事会を午前9時40分より南平台東急本社にて開催
—平成19年度事業計画及び同収支予算の承認ほか
- 3月27日 第381回常任理事会を午前11時より、南平台東急本社にて開催
—第21回多摩源流まつりへの協力についてほか
- 4月9日～12日 継続研究4件、研究進捗状況についてヒヤリングを実施
- 4月24日 第382回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
—第54回理事会、第50回評議員会議案についてほか
- 5月4日 小菅村主催「第21回多摩川源流まつり」を後援
- 5月12日 千葉大学大学院医学研究院主催・東京三鷹ロータリークラブ共催 環境市民講座「健康情報はあなたの栄養となっていますか？」後援 (会場：三鷹ネットワーク大学)
- 5月16日 第50回評議員会を午後1時30分より南平台東急本社にて開催
—平成18年度事業報告、収支決算の承認、理事並びに監事選任
第54回理事会を午後2時30分より南平台東急本社にて開催
—平成18年度事業報告、収支決算の承認、評議員並びに会長・理事長・常務理事及び選考委員の選任
—第49回定時選考委員会採択研究の承認
- 6月1日 財団だより”多摩川”第114号発行
—特別寄稿「多摩川を愛した人たち—狛江玉川碑をめぐる—」
世田谷区文化財保護審議会委員、(財)世田谷トラストまちづくり理事 稲葉和也
—巻頭言「川をめぐる思い出」(武蔵工業大学名誉教授 小沼通二)
- 6月1日～7月31日 環境学習副読本「多摩川へいこう」を10,000部増刷し、多摩川流域の小学校92校に10,467部贈呈
- 6月6日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水と緑の生命科学」後援 (会場：国際基督教大学高校)
- 6月22日 第383回常任理事会を午後4時30分から南平台東急本社で開催
—平成19年度助成金贈呈式についてほか
- 6月29日 研究助成成果報告書発行 (CD-ROM・研究概要小冊子添付)
—学術研究第35巻 (7件収録)、一般研究第28巻 (7件収録) を各々制作し、多摩川流域の図書館、教育委員会、国会図書館、首都圏の主な大学図書館等224施設へ贈呈

- 6月30日 千葉大学大学院医学研究院主催・同大学安全安心総合研究プロジェクト共催
市民講義「緑と水から考えるストレス対策」を後援（会場：千葉大学けやき会館）
- 7月12日 平成19年度助成金贈呈式を正午より、渋谷エクセルホテル東急で開催
－学術研究者7名、一般研究5名並びに理事・選考委員など約40名が出席
式の冒頭、ご来賓の鈴木俊朗氏（経済産業省産業技術環境局課長補佐）
よりご挨拶、並びに進士五十八氏（東京農業大学前学長）による講話を実施
- 7月24日 第13回助成研究ワークショップ「この十年の変化から多摩川の未来を考える」を午後1時より
青山の国連大学会議場で開催（コメンテーター：新藤静夫 千葉大学名誉教授、参加者95名）
- 7月31日 第384回常任理事会を午前11時から南平台東急本社で開催
－助成研究ワークショップについて（報告）ほか
- 9月1日 財団だより”多摩川”第115号発行
－特別寄稿「“野川ルール”ができました－川と人のふれあいルール－」
（野川流域連絡会副座長 平井正風）
－巻頭言「最近の自然保護の動向－生命の多様性をベースに各水系の特徴を活かす－」
（日本自然保護協会理事長 田畑貞寿）
- 9月1日 （社）国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成20年度の助成が承認
- 9月1日 千葉大学大学院医学研究院主催・同大学総合安全衛生管理機構共催
市民講義「環境水から考える化学物質検査の現状と県境環境評価」を後援
（会場：千葉大学普遍総合校舎）
- 9月14日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水と生命」後援
（会場：東京都立富士森高校理科教室）
- 9月15日 千葉大学大学院医学研究院主催 市民講義「健康のためそして災害時のための水」後援
（会場：八王子市あったかホール内環境学習室）
- 9月17日 東京学芸大学現代GP「多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム」
「植物と人々の博物館プロジェクト」に協賛（平成21年3月31日まで）
- 9月18日 臨時評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催
－理事1名退任、1名選任並びに監事1名退任、1名選任
- 9月25日 第385回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
－調査・試験研究助成の公募についてほか
- 9月27日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水と健康の関係」後援
（会場：東京都立成瀬高校）
- 10月1日 臨時理事会を午前9時より南平台東急本社にて開催
－常務理事選任並びに事務局長選任
- 10月29日 第386回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
－上半期決算、下半期収支見直し及び平成19年度決算予想についてほか
- 11月8日 玉川上水（三鷹駅-陣屋橋）の現地踏査並びに「江戸東京たてもの園 玉川上水展見学」
－理事・評議員（代理含む）・選考委員、助成研究者10名で実施
- 11月9日 LTER（長期生態研究）プロジェクト・東京農工大小金井キャンパス学園祭の研究発表パネル展
会場にて進捗状況の報告により、現状を把握
- 11月20日 第387回常任理事会を午前11時から南平台東急本社で開催
－財団運営計画策定案についてほか
- 12月1日 財団だより”多摩川”第116号発行
－特別寄稿「多摩川とまちが響きあう景観をめざして」（川崎市まちづくり局計画部 下田真人）
－巻頭言「多摩川源流の地域づくり」（小菅村源流振興課長 青柳 諭）
- 12月18日 第388回常任理事会を午後3時から財団事務局で開催
－臨時評議員会・理事会議案についてほか
- 12月25日 臨時評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催
－理事1名退任、1名選任

2 研究助成事業

当財団では、平成19年度研究助成金贈呈式を、7月12日（水）、渋谷の渋谷エクセルホテル東急で開催し、本年4月を開始月とする新規の助成研究14件に助成金を贈呈致しました。継続研究10件も承認されていますので、本年度は24件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。（継続研究および6月にCD-ROMと概要小冊子が完成し多摩川流域の図書館等に配布、贈呈した研究については課題と研究者名のみ掲載）

<新規助成研究>

学術研究

湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構 —東京都日野市の例—



松山 洋（まつやま ひろし）
首都大学東京 都市環境研究科 准教授

本研究の目的は、様々な季節・気象条件下における湧水の温度、湧出量、シリカ濃度を測定することにより、湧水の涵養・湧出機構を明らかにすることである。研究対象地域は、これまでの予察的解析により、水温の季節変化が大きい湧水（2つ、年較差10℃以上）と小さい湧水（6つ、年較差2℃以内）がある東京都日野市とする。日野市では、1990年以降毎月2回という頻度で湧水の水温や湧出量の観測がなされていることも、ここを研究対象地域とする理由の一つである。

シリカは降水にはほとんど含まれず保存性に富み、その濃度は、地下における滞留時間や流下経路長に比例するという性質がある。申請者たちはこれまで、東京都にある27の湧水を対象に、豊水期と渇水期に水温とシリカ濃度の測定を行ない、両時期の水温差が大きい湧水ほどシリカ濃度が小さい傾向にあることを示した。これは、外部の環境の影響を受けやすい湧水ほど、地下における滞留時間や流下経路長が短いことを示している。すなわち、これらの湧水は比較的狭い涵養域からなり、気温や環境の変化に対して水温の変化が顕著に表われる可能性を示唆している。

日野市の8つの湧水についても、水温の季節変化が大きい2つの湧水のシリカの濃度は低く、水温の季節変化が小さい6つの湧水のシリカ濃度は高くなることが予想される。本研究の目的は、ここで述べたことを実証的に示し、日野市の湧水の涵養・湧出機構を明らかにすることである。

多摩川本流の礫洲の特徴と河川水への影響評価 —礫洲インベントリーの作成—



小森 次郎（こもり じろう）
日本大学 文理学部 非常勤講師

多摩川の百を越す礫洲(蛇行洲)に見られる多様な動植物、広い河原、ワンドや湧水等は、都市周辺における貴重な景観と環境を形成している。また礫洲での湧水は小規模ながら河川の自浄作用の一つとも考えられる。従ってこれらの礫洲は多摩川の一つの特長として捉えることができる。しかし一方で、河川敷の不法占拠やゴミの投棄など様々な問題も存在している。そして、これらの礫洲の形は増水や人口改変によって刻々と変化を続けている。そこで、本研究は礫洲の持つ特長の評価と維持、および諸問題の解決を最終的な目標として、地形/地質/水文といった視点から多摩川の礫洲インベントリーを作成し、経時変化も含めた礫洲一つ一つの個性を明らかにすることをねらいとしている。また、単なる「河原」と考えられがちな礫洲を「川の主要部位の一つ」として、啓蒙を目的とした小冊子やWebページの作成を行い、市民の川に対する意識向上に寄与していきたい。

多摩川源流域における下水道整備が奥多摩湖の水質問題に及ぼす影響に関する研究

寶 馨（たから かおる）

京都大学防災研究所 教授

共同研究者

牧野 育代 京都大学大学院工学研究科
博士後期課程



本研究は、多摩川最上流域に位置する奥多摩湖の水質悪化に及ぼす下水道設備の影響を明らかにすることを目的とする。すなわち、対象地の下水処理施設でも用いられている活性汚泥法は、処理水の水温上昇を生じさせる原因であること、その熱量は河川水温の上昇、プランクトン種の変化や生長促進にも関与するであろうリスクを含んでいることが考えられる。

このような考えのもと、奥多摩湖とその流入河川における、1. 下水処理水放流による河川水の水質成分比や濃度の変化、2. 下水道からの温排水による河川・貯水池への影響、3. 貯水池の水循環の変化、4. 貯水池の水生物の変化、等の内容を調査・研究することで、奥多摩湖集水域における特定環境保全下水道の普及が流入河川を通じて奥多摩湖の水質に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした研究を行う。

本研究が、排熱を考慮した水処理計画の検討のための資料構築に寄与できればと考えている。

多摩川河川水の下水処理水臭の原因としてのアルデヒド系臭気



浦瀬 太郎 (うらせ たろう)
東京工業大学 大学院 理工学研究科
助教授

河川の臭気は、河川敷のレクリエーション利用などの際の快適性に大きな影響を与える。多摩川においては、下流感潮部分で季節的に問題となる硫黄系臭気以外に、下水処理水臭が中下流のほぼ全域で感じることができる。この臭気は混合臭気であり、硫黄系物質、窒素系物質などが検討対象となってきたが、臭気閾値以上の濃度で多摩川河川水に存在する可能性が高い物質としてアルデヒド系の物質がある。本研究では、におい鑑別装置を用いた臭気の特徴の把握とアルデヒド類のGC/MS測定、官能試験の併用により、多摩川の臭気の特徴を明らかにし、下水処理水の臭気の質、強さへの影響を季節変化も含めて明らかにする。さらにアルデヒド類にしぼって、下水道での生物処理での除去特性を実験室の活性汚泥処理装置で把握し、除去率に影響を与える因子を同定し、実際の下水処理水の調査結果と比較し、下水処理水を受容する河川での臭気挙動を明らかにしたい。

多摩川上流・中流域の河川堆積物と河川水(懸濁態および溶存態)の有害重金属元素分布



加藤 泰浩 (かとう やすひろ)
東京大学大学院 工学系研究科 准教授
共同研究者
藤永 公一郎 早稲田大学理工学部 助手
中村 謙太郎 海洋研究開発機構 研究員
中村 仁美 東京大学大学院 工学系研究科
学術支援研究員

広範な流域面積を持つ多摩川のような河川水系へは、人間活動に由来する環境汚染物質の流入が本流以外の多くの支流からもたらされている。これらの汚染物質は、河川水の生態系を脅かすだけでなく、沿岸の海洋生態系へも多大な影響を及ぼしている。とくにAs, Se, Sn, Sb, Te, Pbなどの重金属元素は、含有量が微量でも、生態系へ甚大な影響を与えられている。本申請研究では、多摩川の中流・下流域において、河川堆積物、河川水の懸濁態、溶存態に含まれるこれらの有害重金属元素が、後背地に由来するものなのか、あるいは工業活動や家庭排水などの人為的な汚染物質に由来するものか、その起源物質を特定し、さらに有害重金属元素の分布マッピングを行い、多摩川水系の環境浄化のための基礎データを構築することを研究目的とする。さらにそれらの対処法についても提言を行うように努める。

多摩川における雨天時に流出する粒状有機物の起源と特性の評価



春日 郁朗 (かすが いくろう)
東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻 助教授
共同研究者
古米 弘明 東京大学大学院工学系研究科 教授

研究では、都市河川における物質動態を評価する指標として粒状有機物に着目している。粒状有機物は水生生物の主要な餌資源として重要であり、流域発生源の影響を強く反映する。粒状有機物の動態は天候に大きく左右され、特に雨天時には、広範囲な流域からの流入(面源負荷)、堆積物の巻き上がりなど、粒状有機物の動態は晴天時と大きく異なることが推測される。多摩川では、都市域に特徴的な雨水流出現象である合流式雨天時越流水やファーストフラッシュなどが、河川を流下する粒状有機物の動態に影響を及ぼすことも想定される。そこで、我々は、雨天時に多摩川を流下する粒状有機物を採取し、その構造特性を熱分解GC/MSを用いて化学的に解析するとともに、粒状有機物に付着している細菌群集の特徴を併せて評価することで、粒状有機物の起源について議論することを試みる。

多摩川河川敷及び流域緑地における草地管理と草性小動物の生息規定要因の関係把握



勝野 武彦 (かつの たけひこ)
日本大学 生物資源科学部 教授
共同研究者
葉山 嘉一 日本大学 生物資源科学部 助教授
大澤 啓志 慶応大学総合政策部 講師
黒田 貴綱 日本大学大学院 生物資源科学研究科
博士後期課程

この研究は、首都圏の数河川や多摩地域の樹林を中心としたネズミ類生息に関する調査研究の延長上にある。チョウゲンボウが都市河川の高水敷草地のネズミ類を餌資源としていることは徐々に明らかになりつつあるが、多摩川のような大河川における上・中・下流と異なった河川敷草地の多様な形態でのネズミ類生息の状況は明らかでない。また、河川に沿った堤内地の土地利用との関係でも、樹林に生息するネズミ類は草地環境のネットワーク化として河川草地と関係があるか明確でない。したがって河川堤外地の草地におけるネズミ類の生息状況を明らかにすると同時に、隣接地域の緑地との関係を明らかにし、減少著しい草地景観のあり方を検討する。ここでは施設化・管理化されたゴルフ場内芝生面は「草地」に入れず、周辺の野生草を中心の草地は含めている。いずれにしろ都市内や周辺域での自然性の復元、創出をめざし生物多様性に配慮した緑地計画の基礎とする。

一般研究

多摩川流域の畑作農家における生活文化の民俗的変容—生業・食生活・生活用水・年中行事・贈答慣行を中心に—



増田 昭子 (ますだ しょうこ)
立教大学 講師・川崎市文化財審議委員
共同研究者
佐藤 誠 立教大学大学院 博士課程後期

かつて長寿村といわれた山梨県上野原市西原地区は、30、40年後の現在も雑穀やイモ類、豆類を栽培し、日常の食生活を支えている。栽培した大豆で味噌を造り、自家消費するだけでなく、地域の直売所で販売し、地元の人や観光客に喜ばれている。粟やモロコシ、野菜も、同様である。以前は、作った物は全て自家用であったが、今は雑穀を中心として商品になったのである。

これは現今の「健康志向」ブームの1つ「雑穀食＝健康」を反映したもので、当地域の畑作農家の変容を示すものである。

野菜類も伝統的なものに加え、小型野菜や調理しやすい「うまいゴボウ」なども栽培されて多様化を示している。また、自家採取した種子によって栽培している伝統的作物と新作物とを組み合わせた農業を行っている。今後基本的な作物栽培を元に、食生活や年中行事の変容にも注目していきたい。

八王子(浅川水系)市内の用水路の通水システムと水利用形態の実態調査および、保全、活用にむけた可能性の研究



須藤 訓平 (すとう くんぺい)

多摩美術大学 研究員

共同研究者

渡部 一二 多摩美術大学 教授

渡辺 義則 多摩美術大学 研究員

佐藤 千枝 多摩美術大学 大学院生

本研究は、八王子市内の用水路の通水システムと水路形態の実態調査を通して、現代都市における水辺空間の保全・活用に向けた新たな可能性を探ることを目的とする。

かつて我が国は、人と自然が共生・共感した持続可能な社会システムを有し、独自の風土美観を形成してきた。水路と人との関わりもまたその1つである。しかし、経済・効率優先社会の中で生活に根ざした多面的水利用形態の多くが消失しようとしており、今後、利用者の高齢化等によってさらなる減少が予想される。

用水路の通水システムと水利用形態は貴重な環境資源、文化資源であり、生態系に与える影響や子どもの遊び場、市民の憩いの場としても非常に重要な環境要素である。我々は、本研究を通し、八王子(浅川水系)市内の地域住民、行政との交流を深め、今後、研究で得られた成果を基に、用水路の保全、市民の暮らしの中での活用にむけて、具体的な活動を提案、展開してゆきたいと考えている。

多摩川河口干潟における地形・潮位と

生物行動の関連性の研究

－上げ潮・満潮・下げ潮時の干潟の魅力を探る－



五明 美智男 (ごみょう みちお)

NPO法人 海づくり研究会 理事

共同研究者

木村 尚 NPO法人 海づくり研究会 理事

鈴木 覚 NPO法人 海づくり研究会 理事

工藤 孝浩 神奈川県水産技術センター

玉上 和範 東亜建設工業(株)

干潟での環境学習や市民活動は、例えば干潟の砂泥にまみれながらそこに棲息する底生物を探るなど、干潮の時間帯に限定されることがほとんどです。しかしながら、干潟生態系のしくみや生物の生態、生活史などを考えれば、一日の干満や季節による水位、水温、塩分、あるいは流量などの変動に対応して、上げ潮時も満潮時もそして下げ潮時も様々な営みが行われているはず。今回の研究は、調査方法などを工夫することにより、干潮時以外の生物の行動もある程度把握できるのでは、と考えたのがきっかけです。私たちが以前、トビハゼの研究をした河口の干潟域を中心に、上げ潮・満潮・下げ潮時の干潟における水位、流動などの物理的特性と生物の行動の関連性について、市民・

専門家による連携調査と見学会によって把握していきたいと考えています。上げ潮・満潮・下げ潮時の見方・歩き方・ふれあい方・楽しみ方や気づきによって、干潮時にはない新たな魅力を発見することができれば大成功です。

巨樹・巨木調査と「源流資源マップ」作成



中村 文明 (なかむら ぶんめい)

多摩川源流研究所 所長

共同研究者

石坂 真吾 多摩川源流大学 現地事務局長

北山 郁人 自然体験宿泊施設 責任者

中村 真理 NPO全国源流ネットワーク事務局

石川 重人 多摩川源流観察会 副会長

多摩川源流域の小菅村にある巨樹・巨木調査とその成果を小菅村源流資源マップにまとめ上げることが、今回の調査・研究の目的である。地球温暖化が進み、持続可能な循環型社会の構築が非常に大切な課題になっている中、厳しい環境に耐えて逞しく成長する巨樹・巨木の姿に触れることを通して、流域の子供たちや市民に自然環境の大切さや川の源である源流の魅力や価値、その役割を理解する材料と機会を提供したいと考えている。

今、東京農業大学による多摩川源流域大学と連携し巨樹・巨木調査をやり遂げ源流資源マップ作成などその成果を上げていきたい。

東京都下多摩川水系およびその流域における昆虫相と分布の変遷(2)



須田 孫七 (すだ まごしち)

東京大学 総合研究博物館 協力研究員

共同研究者

須田 研司 国立科学博物館付属自然教育園昆虫調査員

須田 和美 主婦

山崎 誠 武蔵野自然塾 講師

西口 有紀 東京大総合研究博物館 昆虫標本室

須田 真一 東京大学大学院 保全生態研究室

石井 雅幸 大妻女子大学 助教授

鈴木 斉 世田谷区立松沢中学校 教諭

小川 賢一 聖マリアンナ医科大学 講師

東京都に生息する昆虫について網羅的調査報告は1938年加藤正世による「武蔵野昆虫誌」がある。本書は広義の武蔵野域25年間の調査報告で山地部は含まれていない。

筆者は戦時中から現在までの東京の昆虫について実態調査、文献調査を始め膨大な資料を得ることができた。平成15・16年度、上記研究課題(1)として財団助成を受けトンボ目のデータバンクが完成した。

当初、多摩川水系の昆虫相を総括したいと研究テーマを設定したが分布図作成等調査研究途上で比較のため荒川水系の昆虫相を見る必要を生じた。両水系の昆虫相を見るなら東京都本土部全域及び山梨県多摩川源流域、神奈川県川崎市も含めた広域調査研究とし、「東京都昆虫総目録」「多摩川水系昆虫総目録」の内容ではと前向きに検討し、現在その方向に調査研究を進めている。関東でも埼玉県、神奈川県、千葉県、栃木県では昆虫総目録が刊行されている。本研究の成果によって関東の空白域「東京都の昆虫相・分布図」「多摩川水系全域の昆虫相」が明確化しその成果は各方面から期待されている。

鯉川に生息するゲンジボタルの発生とその生活環境の研究



浅原 俊宏 (あさはら としひろ)

自然の学校 校長

共同研究者

田中 彰 自然の学校 副校長
 青木 雅之 自然の学校 (日野自動車)
 宿谷 珠美 自然の学校 (横浜植物防疫所)
 山本 陽史 自然の学校 (トランスコスモス)
 伊藤 佐智子 自然の学校 (クレシア)
 深澤 秀治 自然の学校 (板橋区エコポリス)
 浅原 ゆかり 自然の学校 (都立小峰公園)
 瀬沼 俊彦 自然の学校 (東京農政事務所)
 飯田 美和 自然の学校 (日本ペイント)

自然の学校がフィールドとしている、あさる野市菅生地区を流れる多摩川流域に生息するホタルの繁殖サイクルを通して、河川動植物の視点に立った環境教育を行います。

多摩川の支線である鯉川では、ホタルの生態系を含む生息環境は、開発が進み、残された河川環境を取り巻く里山環境が変化をしています。

自然の学校が始まった17年前には鯉川に生息するゲンジボタルの数は250頭を確認する事が出来ましたが、治水対策の護岸工事の実施や、農業の衰退によって放置された里山や耕作されないで埋め戻された田んぼなどのため、ホタルの生態系が維持できなくなっています。

私達自然の学校では流域の生態系を通して、子ども達が見る・聞く・感じるという五感を研ぎ澄まして、ホタルの生息環境を取り巻く変化や河川に生息する生物を観察しています。子ども達が調査に参加することにより、ホタルの生態、生息環境、里山の生態系を肌で学び、自然に親しむ心を育てる環境教育を実施していきます。

多摩川流域における

ヒメビロウドカミキリ個体群の分布と保全



新里 達也 (にいさと たつや)

NPO法人 野生生物調査会 副理事長

共同研究者

武田 雅志 NPO法人 野生生物調査会 理事

ヒメビロウドカミキリは、オトコヨモギなどのキク科草本に依存する甲虫類で、本州、四国、九州および対馬から局所的に生息地が知られている。環境省や都道府県のレッドデータブックに掲載され絶滅が危惧されているが、その保全に供する分布や生態などの基礎情報が不足している。

多摩川では、是政橋付近 (府中市) が唯一の既知生息地であるが、この生息地は、除草等の河川管理やマニアによる採集圧にさらされており、緊急の保全対策が望まれている。そこで、本種の多摩川流域における分布を把握するとともに、生活史に関する基礎研究を実施することとした。

初年度の調査は本年5月下旬から開始し、6月中旬時点で、多摩川二子橋～奥多摩下橋ならびに秋川と浅川の全域を踏査し、本種の生息地は全5地点を確認した。引き続き、生息環境や生活史などについて調査を行い、多摩川個体群の効果的な保全対策を検討していきたい。

〈継続規助成研究〉

学術研究

多摩川で回復したカジカ個体群の系統分類に関する研究

糸井 史朗 (いとい しろう)

日本大学 生物資源科学部 助手

多摩川河口域の鳥類相の長期的変遷と保護に関する研究

桑原 和之 (くわばら かずゆき)

千葉県立中央博物館

生態・環境研究部環境教育研究科 上席研究員

多摩川流域における工業的土地利用の変化・機能転換と流域環境整備の課題

松原 宏 (まつばら ひろし)

東京大学大学院 総合文化研究科 助教授

多摩川沿川地域におけるオープンスペースと建築景観の実態に関する調査研究

—特に建築物による眺望遮蔽の現状と河川の景観資源価値への影響や住民意識について—

進士 五十八 (しんじ いそや)

東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授

歴史的・生態的価値を重視した水辺都市の再生に関する研究

—日野の用水路網の保存・回復に向けた市民的な取り組みをケースとして—

陣内 秀信 (じんない ひでのぶ)

法政大学工学部 教授・法政大学大学院エコ地域デザイン研究所 所長

多摩川水系飲用水に関する市民コーディネータ育成アカデミーの設立

：河川水と水道水との連動的水質悪化の検証と原因究明に関する中流域市民との共同調査

鈴木 信夫 (すずき のぶお)

千葉大学大学院 医学研究院 (環境影響生化学) 教授

一般研究

住民の目で見つけた多摩川の35年

—蓄積した写真資料等による多摩川の自然環境の変遷を解明する研究—

柴田 隆行 (しばた たかゆき)

多摩川の自然を守る会 代表

「みんなで作る水循環市民プラン」市民による市民参加型調査

佐藤 節子 (さとう せつこ)

くにたち水の市民調査会 代表

多摩川河床に見られる下部更新統上総層群の長鼻類・偶蹄類足跡化石群の分布調査及び足跡化石群の露出から消滅までの経過と保存の検討

福嶋 徹 (ふくしま とおる)

GeoWonder企画 むさしの化石塾 代表

玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査

佐藤 方博 (さとう まさひろ)

特定非営利活動法人 生態工房 理事

—研究助成成果報告書収録の研究—

学術研究第35巻7件および一般研究第28巻7件の研究助成成果報告書 (CD-ROM収録) が完成し、6月29日から多摩川流域の図書館、大学、教育委員会等224施設に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

学術研究

多摩川集水域におけるツキノワグマの土地利用についての研究

—主としてオスおよび若齢個体の移動分散様式について—
山崎 晃司 (やまざき こうじ)
 茨城県自然博物館 動物研究室

大気—河川—内湾系連成モデルに基づく多摩川河口域の物質循環解析

—東京湾が多摩川の水質環境に与える影響に着目して—
八木 宏 (やぎ ひろし)
 東京工業大学大学院情報理工学専攻環境学専攻
 助教授

テフロクロロジーを用いた多摩川流域における鮮新-更新世の古環境復元

田村 糸子 (たむら いとこ)
 首都大学東京 都市環境科学 地理環境科学専攻

多摩川中流域における河川敷植生の復元と管理についての研究

一澤 麻子 (いちさわ あさこ)
 横浜植生研究会 会員

多摩川における早瀬の景観的特徴とその水理環境に関する研究

知花 武佳 (ちばな たけよし)
 東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 助手

多摩川水系飲用水に関する市民コーディネーター育成アカデミーの設立

：生物作用水質モニターと水のヒト生命科学教育システムの構築
鈴木 信夫 (すずき のぶお)
 千葉大学大学院 医学研究院環境影響生化学 教授

生態系維持基盤としての流域特性と水循環特に関する研究

—スギ・ヒノキ放置林伐採前後における比較—
佐倉 保夫 (さくら やすお)
 千葉大学理学部 教授

一般研究

森林生態系における動物が植物の種子散布過程に果たす役割に関する研究

—主に中、大型食肉類を中心とした他の生物種との生物間相互作用について—
小池 伸介 (こいけ しんすけ)
 東京農工大学 大学院農学専攻

東京都の湧水等に出現する地下水生生物の調査

篠田 授樹 (しのだ さづき)
 地域自然財産研究所 代表

多摩川中流域の水環境を題材としたプログラム開発と市民による学校支援体制システムの研究

杉山 典子 (すぎやま のりこ)
 調布市環境学習サポーター

多摩川中流のかつての田園地域における希少植物の生育確認調査

星野 順子 (ほしの じゅんこ)
 東京環境工科学園 非常勤講師

中央線沿線地域の雨水循環的活用可能性研究調査

黒岩 哲彦 (くろいわ あきひこ)
 特定非営利活動法人 グリーンネックレス 理事

野川流域における湧水保全モデルの開発に関する計画論的研究

神谷 博 (かみや ひろし)
 水みち研究会 代表

多摩川における地区河川環境モニタリング手法とその運用に係る人材育成に関する研究

横山 十四男 (よこやま としお)
 多摩川流域リバーミュージアム 代表

3 第13回助成研究ワークショップ

「この数十年の変化から多摩川の未来を考える」(平成19年7月24日 於国連大学5階)

13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 会長・理事長	五島 哲
13:15	報告1	「多摩川の植生と植生図、30年間の変化」 2005年～2007年助成 東京農業大学 森林総合科学科 教授	中村 幸人
13:35	報告2	「多摩川における工業的土地利用の変化・機能転換と流域環境整備の課題」 2006年～2008年助成 東京大学大学院 総合文化研究科 教授	松原 宏
13:55	報告3	多摩川水系およびその流域に於ける昆虫相とその分布の変遷 (I)、(II) (1) 2005年～2007年助成 (2) 2007年～2009年助成 東京大学 総合研究博物館 協力研究員	須田 孫七
14:10	報告4	「住民の眼で見つけた多摩川の30年—自然の変遷と自然観の変化—」 2000年～2002年助成 「住民の眼で見つけた多摩川の35年—写真資料による自然環境の変遷」 2006年～2008年助成 多摩川の自然を守る会 代表	柴田 隆行
14:30	コメント	コメンテーター (総合解説) 千葉大学 名誉教授	新藤 静夫
14:35	休憩	(10分)	
14:45	総合討論会	コメンテーター コーディネーター 千葉大学 名誉教授 とうきゅう環境浄化財団 常務理事	新藤 静夫 長井 弘道
16:00	閉会		

研究概要

報告1 「多摩川の植生と植生図、30年間の変化」

首都圏に位置する多摩川は絶えず時代変化の影響を受け、とくに高度経済成長期を通して流域の伐採と水質汚染が進み、環境が劣悪化した。その後、流域の環境を改善、保全していく機運が高まり、本来の水環境や生物種が戻り始めたという報告がある。しかし、源流域ではニホンジカの個体数の増加による林床植生の破壊や人工林の管理放棄による地形浸食が起り、流域への影響が危惧され始めている。地域の自然環境を評価する有効な手段のひとつに、植生など自然の属性の質と量の経年変化を調べる方法がある。これは植生の現況を評価するだけでは見えてこない部分、すなわち過去から現在への中で、自然環境の何がどのように変わったのかを、具体的に捉えることができ、また将来への予測に繋げることができる。そのためには過去に研究された比較できる資料が残されていること、また、過去と同じ方法を用いて現況調査を行なう必要もある。多摩川ではまだ、汚染がひどかった1975年に流域の植生調査と植生図化が行なわれている(奥田1975)。本研究の目的は30年前に行なわれた「多摩川流域の植生と植生図」と同じ地域で、同じ方法を用いて植生調査と植生図化(縮尺1:5,000)を行ない、環境浄化に取り組まれた30年間を中心に、自然環境の変化を植生の側から正確に読み取ることである。初年度は調査対象域の植生を植物社会学的な調査を通して明らかにした。さらにこれらの植生単位を凡例化して河川敷の現存植生図(1:5,000)を作製、30年前、10年前の植生図も合わせてデジタル化を行い、30年間の比較を行った。

報告2 「多摩川流域における工業的土地利用の変化・機能転換と流域環境整備の課題」

製造業の生産拠点となっていた工場の海外流出が問題となる一方で、新鋭工場の国内回帰が話題となっている。特に東京などの大都市圏では、これまであった単純な大量生産を担当する工場が機能転換され、研究開発や試作といった知識集約型の工程に特化する様子が多くみられるようになってきている。企業によっては都心部の工場を完全に閉鎖し、立地の良さを活かして本社などの入るオフィスビルを建設している例もみられる。閉鎖された工場の用地が他企業に売却され、高層住宅や大型ショッピングセンターとして新たなかたちで活用されている例も多い。このような工場の閉鎖や機能転換による土地利用の変化が、地域経済のみならず周辺環境にも影響を与えることは自明だが、その実態把握すら充分には行われてこなかった。そこで今回は大規模工場を対象を絞り、多摩川流域における大規模工場跡地の土地利用の変化について調査した結果を報告する。

報告3 「多摩川水系およびその流域における昆虫相とその分布の変遷」

多摩川流域の昆虫相研究は、一部の昆虫群については成されているが、総合的昆虫相は未知であり、筆者の知る限りでは、戦前から現在に至る、昆虫相の変遷を総括した論文はなく、昆虫の総種類数さえ不明である。筆者は、戦前から特定の昆虫群に偏らず、東京の昆虫相明確化を目的に、現地採集による調査研究と所蔵標本・文献による調査研究を実施し、その結果、約18万点の標本と東京昆虫誌系文献約8500点を得た。その資料をベースに2004年秋、東京大学総合研究博物館において「東京の昆虫たち その衰亡の歴史をたどる」展を開催した。

報告4 「住民の眼で見つづけた約半世紀の多摩川の変遷—資料と写真をもとに—」

多摩川の自然を守る会は1970年2月8日、多摩川の河川敷が運動場として造成されることに反対して結成された。運動を進めるなかで、守るべき多摩川の自然を市民が肌で身近に実感することが大切だと実感し、多摩川現地での自然観察会を行った。1970年11月25日、多摩川の自然を守る会のメンバーがリーダーとなり親と子のための自然観察会を狛江五本松周辺で開催、約150名の市民の参加を得た。その後、1972年4月に狛江で月例自然観察会を始めてから現在に至るまで毎月1回の定例自然観察会を35年間にわたって実施している。

自然観察会で使用するテキストとして作成されたのが1972年4月創刊の機関紙『緑と清流』で、2007年6月現在第397号を数える。これとは別に、多摩川の自然環境や保護運動について報告する『川のしんぶん』を1976年10月1日に創刊、こちらは現在344号を数える。現在『緑と清流』は自然観察会当日に使用する地図と自然観察会の感想文だけを掲載し、ニュースはすべて『川のしんぶん』に掲載している。

4 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200団体以上あると言われています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。（順不同）

NPO法人・任意団体名	URL
NPO法人 多摩川エコミュージアム	http://www.seseragikan.com/
NPO法人 海辺つくり研究会	http://homepage2.nifty.com/umibeken/
NPO法人 グリーンネックレス	http://www.green-necklace.org/
NPO法人 森づくりフォーラム	http://www.moridukuri.jp/
NPO法人 環境学習研究会	http://www.ecok.jp/
NPO法人 全国水環境交流会	http://www.mizukan.or.jp/
NPO法人 地球野外塾	http://www.k3.dion.ne.jp/~t-yagai/
NPO法人 かわさき自然調査団	http://home.a03.itscom.net/nature23/
NPO法人 東京どんぐり自然学校	http://ueno.cool.ne.jp/tokyodongui/
NPO法人 生態工房	http://www.eco-works.gr.jp/
NPO法人 自然文化史研究会	http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/
NPO法人 地域自然情報ネットワーク	http://www.geo-eco.net/index.html
NPO法人 日本エコクラブ	http://www18.ocn.ne.jp/~ecoclub/index.html
NPO法人 樹木環境ネットワーク協会	http://www.shu.or.jp/
NPO法人 府中かんきょう市民の会	http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/
NPO法人 東京都ウォーキング協会	http://enjoywalking.jp/
NPO法人 多摩川環境研究会	http://www.nposhen.net/abt/org/orgpage/d0002.shtml
(財) たましん地域文化財団	http://www.tamashin.or.jp/
(財) せたがやトラストまちづくり	http://www.setagayam.or.jp/
多摩交流センター	http://www.tama-100.or.jp/tama/
多摩川源流研究所	http://www.tamagawagenyuu.net/
東京都奥多摩ビジターセンター	http://www13.ocn.ne.jp/~okutamav/
多摩川流域リバーミュージアム	http://www.tamaver.net/
みずとみどり研究会	http://www3.tky.3web.ne.jp/~sarahh/
多摩川と語る会	http://www.smnpo.gr.jp/npo_data/kantou/kt16.html
福生水辺の楽校	http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/
あさしま水辺の楽校	http://www7a.bi-globe.ne.jp/~akishima-mizube/
浅川潤徳水辺の楽校	http://www.e-juntoku.hino-ky.ed.jp/modules/wordpress1/index.php?cat=17
滝合水辺の楽校	http://www.e4akiai.hino-ky.ed.jp/modules/wordpress1/index.php?cat=14
府中水辺の楽校	http://www.tamariver.net/02miryaku/tama_jyohcu/tama_katsudo/mizube/ga-fuchu.htm
かわさき水辺の楽校	http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/use/school/kawasaki.htm
粕江水辺の楽校	http://www6.ocn.ne.jp/~yamaguri/
せたがや水辺の楽校	http://quaik-staff.com/setagaya-mizube/main.htm
とどろき水辺の楽校	http://www001.upp.so-net.ne.jp/motoori/mizube/
多摩川癒しの会	http://home.m03.itscom.net/tyashi/
多摩川・リバーシップの会	http://river-ship.cliff.jp/
多摩川の自然を守る会	http://homepage2.nifty.com/tamagawa/
多摩川サケの会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand/Sky/2024/
実践生物教育研究会	http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/
八王子・日野カワセミ会	http://kawasemi.fan-site.net/
西多摩自然フォーラム	http://www.ntforum.org/
ラブリバー多摩川を愛する会	http://homepage3.nifty.com/loveriver/
玉川上水ネット	http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/
ガサガサ水辺移動水族館	http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/
多摩川流域市民学会	http://tamagawa-shiminakkai.at.webry.info/
野川流域連絡会	http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-a-title.htm
自然の学校	http://www.geocities.co.jp/AtHlete-Acropolis/5483/
むさしの化石塾	http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kaseki-kyuku/
里山くらぶ	http://www.sato-yama-club.jp/index.html

5 2007年の多摩川関連の主な新聞記事

1月	7日	毎日	多摩川の姿、記録に	－写真集「ふるさと立川 立日橋」主婦、矢部たまえさんが自費出版
	11日	朝日	源流からみる東京の水	－関東平野の水圏 地図で“体感”も
	11日	朝日	環境保護へ大学連合	－技術を集約、共同企画も
	12日	読売	ごみ削減 市民・事業者と	－多摩市が「協働プラン」
	12日	朝日	広々と8千平方メートル級も	－国から河川敷借り 来年度
	15日	神奈川	多摩丘陵の考え	－連携の強化を探る
	15日	神奈川	遊び通じて親しむ里山	－多摩区・東生田緑地
	15日	朝日	どんど焼き40年ぶり	
	17日	読売	多摩川と浅川保護 シンポジウム開催	－日野市役所で21日
	17日	朝日	玉川上水で景観論争	－立川のマンション来月着工
	18日	読売	江戸の水車 技術伝える	－立川の教諭らが小冊子作成
	19日	朝日	多摩川学ぶ「市民学会」	－地域・専門分野超え交流
	23日	朝日	「里山」再生着々と	－多摩動物公園の雑木林
	27日	朝日	消えゆく昆虫 背景探る事典	－「自然保護 あり方考えて」
	29日	神奈川	みどりと友好のシンポ	－多摩・三浦丘陵の魅力探る
	28日	神奈川	緑地開発に警鐘	－タヌキの交通事故多発で設置
	29日	朝日	多摩川の良さ 伝えよう	－福生「市民学会」130人交流
	29日	神奈川	「きれいな川崎」魚に人気	－17年で種類倍増
	30日	朝日	小金井桜補植へ 分家から里帰り	－岩手・北上から今秋に苗木
	31日	日経	東京湾浄化 都が大作戦	－隅田川周辺は汚泥除去
2月	3日	朝日	サケっ子見つめる子	－「命の大切さ感じた」
	4日	朝日	「水車よ回れ」夢動力に冊子	－歴史や仕組み「知って」
	6日	読売	多摩川の魅力 はがきで	－子供の作品30枚を小冊子に
	11日	神奈川	緑を「つなぎ手」に	－多摩・三浦丘陵の保全探る
	15日	読売	あきる野の里山 17日に整備作業	－ボランティア募集
	17日	東京	好評の「シカ肉カレー」	－1ヶ月で760箱完売
	18日	神奈川	身近なところで環境みつめ学ぶ	－川崎の児童が成果発表
	18日	朝日	人里で生息域拡大	－16種類確認、食害も
	21日	東京	江戸前に思い「海苔資料館」	－「のり文化発祥の地」大田区、来年開館へ
	21日	神奈川	多摩川の水質改善実感	－生き物観察会 市長に報告
	23日	読売	福生の景観 慶大院生ら調査	－崖線境界に多様さ
	22日	神奈川	身近な環境問題 子供たちが表現	－中原 コンクール入選作展示
	24日	朝日	高尾山の魅力 再発見して	－動植物の写真集出版
	25日	朝日	「農の風景」取り戻そう	－調節池に田んぼや湿地
	27日	朝日	餌はやらないで 井の頭公園池	－来月から官民共同で呼びかけ
3月	1日	朝日	100年前の剥製発見	－絶滅？のニホンカワウソ
	1日	読売	玉川上水論争が白熱	－「福生古文書研究会」(福生市)
	1日	読売	武蔵野の風景写真60点	－きょうから 田沼武能さん作品展
	5日	神奈川	タマちゃんの伝言忘れない	－都会の水辺にも命の営み
	13日	朝日	10年10月供用開始	－羽田新滑走路30日着工
	15日	東京	アユ 春の跳躍	－多摩川で遡上始まる
	18日	東京	「海苔の食文化」歴史探る	－包装紙や広告など1000点以上収集
	20日	読売	心和み 足取り軽く	－季節感じる 川辺の小さな旅
	20日	読売	多摩川河川敷墓地 反対の請願を採択	－昭島市議会厚生委員会
	20日	神奈川	浄水が結ぶ いざの安心	－登戸と町田に水道連絡管
	20日	読売	水から広がる環境意識	－東京・大田区立久原小
	23日	読売	ヤマメとシカ 料理講習会	－奥多摩の特産品PR
	30日	神奈川	パズルで知る 川崎の今昔	－江戸時代と現代の地図
4月	3日	神奈川	水面に映える満開アーチ	－二ヶ領用水の桜並木見ごろ
	3日	読売	地元産木材使い図書館	－杉やヒノキの香り漂う

4日	神奈川	「母なる川」次世代へ	－川崎市が多摩川プラン
6日	朝日	衰える「小金井桜」心配	－守る会「補植」必要性訴え
8日	読売	「ヘルシーウォーク」で幕開け	－多摩川イベントラリー
8日	神奈川	干潟の動植物に歓声	－川崎区 多摩川河口で観察会
11日	毎日	銀鱗キラリ	－多摩川
12日	読売	「ルール本」参考にして	－野川の環境 楽しみ 守るには
15日	朝日	親子でタケノコ掘り	－世田谷・等々力溪谷公園
15日	神奈川	母なる多摩川 保全活用探る	－NPO法人がシンポ
26日	朝日	「小金井桜」整備に重点	－玉川上水の保存・管理都計画書策定
5月2日	朝日	赤とんぼ、なぜ減った？	－「サミット」を開催
4日	神奈川	自然環境 悪化に警鐘	－市内の調査報告会
6日	毎日	「美しい多摩川フォーラム」設立へ	
8日	神奈川	干潟 生き物いっぱい	－多摩川でカニやシジミ
9日	朝日	崖線の魅力、マップに	－古墳など観光スポットも
11日	読売	多摩川で海牛の全身化石	－ジュゴンの仲間、新種か
13日	朝日	水質調査 広がる輪	－多摩の市民活動 全国へ
15日	神奈川	多摩川沿い散策	－かわさきウォーク
16日	東京	今年のアユ釣り解禁	－秋川と多摩川は来月10日
19日	毎日	戸倉小に環境大臣賞	－あさる野で探鳥授業
22日	読売	圏央道 高尾山トンネル着工	－用地2件未買収のまま
23日	朝日	山梨・小菅から交流の材木	－プロの手も借り 親子で木工教室
26日	神奈川	「丸子の渡し」復活イベント	－あす多摩川
26日	朝日	アユ、多摩川へいらっしゃい	－調布取水堰を開放「自由に上って」
27日	読売	新緑の高尾山 清掃活動	－ミス日本各賞の5人も参加
28日	神奈川	「丸子の渡し」現代に	－多摩川に一日限りの復活
29日	読売	水害シーズンに備え訓練	－多摩、日野 住民ら計900人参加
29日	朝日	井戸・湧水を一目で	－昭島の市民グループ 180カ所の現状、地図に
29日	読売	奥多摩の山火事が鎮火	－12時間で、5ヘクタール焼失
30日	朝日	植物眺め10コース	－多摩ニュータウン散策のお供に1冊
31日	読売	町を森林セラピー基地に	－奥多摩町、都内初認定目指す
6月1日	東京	アユ100万匹	－多摩川解禁
1日	毎日	カワラノギクみんなで守ろう	－あす、9日福生で除草ボランティア
1日	読売	山林保全し公園に	－ニュータウン「最後の未開発地」
3日	神奈川	初夏の多摩川歩く	－地域史学びながら4キロ
4日	読売	カヌーで自然と一体に	－奥多摩でフェスティバル
4日	朝日	日野の浅川は水質「きれい」	－市民ら一斉調査
4日	神奈川	多摩川美化活動に首相参加	－ごみ拾う暇ない握手攻め
12日	朝日	高尾山周辺、地裁が視察	－「圏央道」訴訟 原告・被告が説明
13日	神奈川	地元住民ら自費で調査	－記録と違う水路など確認
14日	朝日	2つの市民団体統合	－「小金井桜」の保存・調査活動
15日	読売	雑木林が「第二の校庭」	－町の「保存樹林地」利用
15日	読売	アレチウリ繁殖 ツバメ追い出す	－府中の多摩川河川敷 ヨシ原覆う
16日	神奈川	住民側の請求棄却	－圏央道建設差し止め訴訟
18日	神奈川	多摩川もっと“見つめて”	－魅力ある水辺空間に
20日	毎日	榎窪川一部で水枯れ	－「止水工事で流れ戻る」
28日	読売	いかだレース 有終	－浅川の夏 彩り18年
7月9日	東京	奥多摩の滝に 達人魅せられ	－写真48枚を展示
9日	毎日	消えるツバメ	－多摩川 営巣できず
10日	朝日	ツバメのねぐら 危機	－多摩川ヨシ原、飛来激減
11日	読売	水源林ウォーク 参加者30人募集	－都水道局
12日	神奈川	多摩川下りで「環境調査隊」	－4泊5日、参加者募集
15日	読売	川の魚 生育方法学ぶ	－遊学塾 多摩川沿い森林散策も
18日	神奈川	ドジョウに新天地	－絶滅危惧種30匹放流
22日	神奈川	多摩川生かし地域活性	－流域首長ら フォーラムを設立

	2日	東京	NPO力で公園“開花”	— 来園者倍増 ボランティア活躍
	25日	神奈川	多摩川に親しんで	— 夏休み子供教室 流域協議会
	27日	朝日	障害のある人もない人も川原で一緒にキャンプ	— 来月あきる野で、参加者募集
	28日	読売	林の中でミゾゴイ観察	— あきる野の川名さん 環境保全訴える
	31日	読売	川遊びで水辺環境学ぶ	— 八王子で「ガサガサ探検隊」
	31日	神奈川	東京湾でアサリ大量死	— ウミグモなぞの繁殖 千葉の漁協、出荷自粛
8月	3日	朝日	ホトケドジョウ多数	— 「繁殖地、可能性高い」
	3日	読売	「多摩川写真展」始まる	— 立川タカシマヤに572点
	5日	神奈川	野生動物を救え	— 「リハビリテーター」養成
	6日	日経	樹脂の漂着ごみで海の汚染状況調査	— 東京農工大、ネット公開も
	7日	朝日	市の取得交渉暗礁に	— 募金、宙に浮く恐れ
	8日	東京	区役所内に雑木林復元	— 昆虫、ドジョウの姿も 練馬区民の郷愁誘う
	8日	読売	捕獲のシカ 放牧場	— 処理施設近くに1.6ヘクタール
	9日	読売	埋め立て差し止め提訴	— 反対運動の市民団体方針
	9日	読売	東大農場 移転撤回	— 西東京 憩いの場残った
	9日	神奈川	楽しんで温暖化防止	— 子供たちが「打ち水作戦」
	14日	朝日	名水伝説 オペラにのせ	— 自然・歴史・・・街の魅力発信
	15日	東京	森は、消えるのか	— 宮崎駿監督ら「生きている自然に意味」
	17日	東京	秋川溪谷にクマ「出た」	— あきる野市観光に不安 マナーは命の問題
	18日	朝日	カワセミ・トンボ 夏の戯れ	— 瑞穂では写真展で観察記録紹介
	22日	読売	「奥多摩やまめ」の特産化へ試行錯誤	— 出荷方法変更/切り身で販売
	22日	神奈川	市民団体が「多摩川塾」	— 環境や生物、先生学ぶ
	23日	読売	ごみ処理有料化賛成68%	— 「減量意識向上」70%超す
	23日	読売	農大の演習林を見学 来月29日	— 玉川上水沿いを散策 10月21日
	24日	毎日	遊学塾 水生生物を活用 東京湾浄化実験	— 28日 お台場海浜公園P R
	26日	神奈川	多摩川の鵜飼い 70年ぶり一日限り復活	
	30日	東京	ハゼが大量死	— 大田区の内川 酸欠が原因か
	30日	読売	マハゼ確認	— 多摩川中流26キロ地点
9月	4日	日経	多摩の里山 守ろう	— 町田市一農業再生へ市民協力 八王子市一公園を新設 体験の場も
	5日	朝日	多摩川を桜の名所に	— 最上川の植樹活動 モデルに
	5日	朝日	「東京」より「はむら」飲んで	— 自慢の水道用地下水
	6日	読売	森林浴効果実験スタート	— セラピー基地目指す奥多摩町
	6日	神奈川	地球温暖化 防げ!!	— 麻生区役所 対策学ぶ講座
	7日	毎日	農工大でジャムづくり	— 農学体験
	8日	神奈川	臨海部で環境革命	— 川崎で国際ワークショップ
	12日	日経	校庭に浸透設備 埋設	— 武蔵野市・杉並区 毎年2-4校で
	14日	読売	寿命迎える ごみ焼却場	— 「他人だのみ」10年 小金井市
	15日	朝日	湧水の诗情 復活を	— 狛江市民ら18日から「水風景」の写真展
	15日	神奈川	施設復旧へ めど立たず	— 台風被害の多摩川河川敷
	20日	読売	オオタカ 今年も繁殖	— 八王子城跡トンネル近く
	21日	朝日	東京湾、進む酸欠	— 黒いヘドロ、貝・カニ窒息死
	23日	神奈川	多摩川河川敷 ホームレスどう誘導	— 台風被害で課題 関係者が対応に苦慮
	25日	読売	羽村の水道水	— ベットボトル 市が11月販売
	26日	朝日	江戸潤した技術の粋	— 「玉川上水と分水」展 学芸員手作り立体地図も
	26日	朝日	「高尾の里」に観光拠点	— 八王子市計画策定 学習の場も提供
	27日	毎日	現場で独自に判断	— 多摩川増水 避難勧告に住民動かさず
	30日	読売	奥多摩のシカ食害学ぶ	— 演習林で遊学塾28人参加
10月	2日	東京	野菊戦争	— 絶滅危惧種「カワラノギク」 外来種から救え 多摩川の河原も「グローバル化」
	6日	毎日	今も残る大きなつめ跡	— 台風9号直撃から1カ月 復旧見通し立たない施設も 多摩川河川敷
	10日	読売	公有地化へ補正予算案	— 東村山市長発表 取得費7371万円
	10日	神奈川	市民の意見反映を	— 向ヶ丘遊園跡地開発 環境団体が意見交換会

12日	毎日	昭和30年代 武蔵野の農村再現	－ 農作業など体験 昭和記念公園内
12日	朝日	地震に備え井戸を知る	－ 国分寺で市民ら現状調査 守り手も紹介し冊子に
12日	日経	武蔵野の農村風景 再現	－ 昭和記念公園にあす開園 稲刈りや炭焼き体験
15日	朝日	クマ狩猟を制限へ	－ 東京・山梨 秩父山系 生息数減少
16日	神奈川	自然の遊び場満喫	－ プレーパーク実施
16日	読売	都収用委が2回目調査	－ 圏央道高尾トンネル周辺
19日	神奈川	サケ育ての親募集	－ 家庭でふ化→多摩川へ
19日	毎日	カマ使い児童ら稲刈り真剣に	－ 稲城・第二小
19日	読売	小学生稲刈り体験	－ 武蔵村山
21日	朝日	ツシマヤマネコ公開	－ 危惧主保護アピール 井の頭自然文化園
22日	読売	玉川上水 歴史と自然知る	－ 遊学塾 カワラノギクの花観察
23日	朝日	イワナで地域交流一役	－ 多摩川源流 山梨・小菅村の特産
24日	毎日	武蔵野中央公園のチョウを図鑑に	－ 元FMラジオアナウンサー 城野さんら手作りで
29日	神奈川	野鳥遊ぶ貴重な干潟	－ ラゾーナであすシンポ 多摩川河口を考える
30日	日経	荒川河川敷に黒メダカ生息	－ 地域固有種特定できず
31日	読売	黒塚の街並み 復活を	－ 八王子・中町 観光協・市民ら協議会
31日	東京	台風ニモマケズ カワラノギク	－ 河川敷増水も50株が咲く 羽村
11月	2日	毎日	おいしい「水はむら」販売
	2日	読売	カワラノギク見ごろ
	4日	神奈川	水害から地域守ろう
	5日	朝日	小金井桜86年ぶり帰郷
	9日	読売	富士山ろくにトラスト地取得
	8日	日経	太宰治のサロン開設
	11日	神奈川	新聞ヒントに環境考察
	13日	日経	小河内ダム きょう完成50年
	14日	朝日	国分寺崖線 保全で宣言
	14日	読売	ごみ減量にエコショップ制
	14日	朝日	望郷と誇り 交錯
	15日	東京	景観保持へ独自規制
	17日	読売	紅葉の多摩川溪谷散策
	20日	日経	排出権 都外調達に制限
	24日	朝日	手作り水車で雨を光に
	27日	読売	多摩川テーマに
	28日	日経	高尾山の山歩きルール
	30日	毎日	ホタルの舞う自然へ
12月	4日	朝日	捨て魚 多摩川泣く
	5日	読売	台風後遺症 濁る
	5日	日経	給食の廃油 燃料に再生
	7日	朝日	外来魚繁殖、モツゴ ピンチ
	10日	朝日	温か多摩川アユの産卵続く
	11日	日経	府中市 廃止を延期
	11日	日経	多摩に緑地保全地域
	11日	毎日	多摩川の環境浄化で調査・研究を募集
	12日	読売	多摩川流域題材 写真コンテスト
	18日	日経	多摩の中小河川 自然回帰
	19日	朝日	卓上暦、「顔」は野菜
	20日	毎日	25の年輪 切る罪悪感
	24日	読売	世界遺産に御岳山 どうですか
	24日	毎日	府中市 景観行政団体に
	26日	朝日	多摩川を完歩 手作り記録集
	28日	日経	「森の癒やし」を観光に
	28日	朝日	環境学習の場へ
			－ 清流戻り「ボイ」助長
			－ 多摩川の清流 どこへ
			－ 八王子市 ごみ収集車に使用
			－ 「絶滅の危機」市民団体対策要望へ
			－ 中流域水量の5割 19度の下水処理水
			－ 街頭のごみ収集ボックス
			－ 都が指定 自然体験など活用
			－ 作品募集
			－ 都が整備方針 川岸に遊歩道も
			－ 地元産100選へ取り組み
			－ 奥多摩で伐採 枝打ち
			－ 青梅市 適正を研究へ
			－ 内定で条例全面改正
			－ 1年間かけ両親と
			－ 奥多摩町「セラピー基地」認定へ
			－ 都の保全地域に



「多摩橋と石濱渡津跡」

(青梅線軍畑駅そば)

写真撮影者 島田 美知子 (青梅市在住)

多摩川の橋の写真と、それぞれの橋の附近を紹介した小文をのせた「多摩川橋めぐり」(上・下)(けやき出版)を出版

■ 選考委員紹介 ■

9名の選考委員は昨年5月の理事会で選ばれました。
任期は平成21年5月までの2年間を予定しています。(50音順)



選考委員長
高橋 裕
東京大学名誉教授
専攻 河川工学



小倉 紀雄
東京農工大学
名誉教授
理学博士
専攻 環境化学
地球化学



小堀 洋美
武蔵工業大学
環境情報学部教授
農学博士
専攻 保全生物学



齋藤 潮
東京工業大学大学院
社会理工学研究科
教授 工学博士
専攻 景観原論 計
画・設計論



新藤 静夫
千葉大学
名誉教授
専攻 地質学
鉱物学



鈴木 信夫
千葉大学大学院
医学研究院教授
医学博士
専攻 環境影響生
化学



田畑 貞寿
(財)日本自然保護協
会 理事長
専攻 造園学
環境計画学



増井 光子
よこはま動物園園長
専攻 獣医学
動物行動学



宮川 公男
一橋大学
名誉教授
専攻 経済学
経営学

●発行日平成20年3月1日
●編集兼発行(財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル8F)
TEL(03)3400-9142
FAX(03)3400-9141
ホームページ <http://home.q07.itscam.net/tokyueru>

